

2014

平成26年5月 - 3

今月の情報



E-mail: honbu@otedama.jp

●お問い合わせなどメールをご利用ください



http://www.otedama.jp

●たまちゃん通信はホームページに掲載

日本のお手玉の会本部

〒792-0013 愛媛県新居浜市泉池町 10番1号

TEL: 0897-32-0302

FAX: 0897-32-0311

鹿児島お手玉の会が普及を続けて10年 読売新聞が山本清洋会長に活動の内容を聞く

鹿児島お手玉の会は、設立から10年を経過しました。この節目の年に当たり、4月20日、第11回お手玉遊び大会 in 鹿児島を開催するなど、山本清洋会長（日本のお手玉の会副会長）は、次なる飛躍に向けて抱負を述べています。

「今年度は、第二期の新しいスタートを切ることにあります。現在、鹿児島お手玉の会は、奄美市名瀬、始良市、加世田市金峰町、鹿児島市、西之表市の5つの支部、会員数150名を有しています。これからも、鹿児島島の特性を生かした活動に取り組みでいきます」と、意欲を示しています。

同時に、これからの活動への希望として、次の4点をあげています。

- ① お手玉文化を受け継ぐ、大学生の参加を増やす
- ② 福祉領域でお手玉を活かす青年たちの参加を促す
- ③ 障害者と健常者がともに楽しめるお手玉遊びを生活に
- ④ お手玉遊びをとおして地域に役立つ事業の展開

こうした山本会長の活動への取り組みを、読売新聞（平成26年2月2日付）に「お手玉の普及が続け10年、鹿児島の手玉遊びの幅を広げる」との見出しで記事が掲載されましたので、紹介します。

お手玉普及が続け10年

鹿児島の手玉遊びの幅を広げる



昔ながらの遊びの普及を、手段として、さらに広げよう。鹿児島お手玉の「めいた」と意気込んでい

（事務局・始良市）が、時代の要請とも次第日本大震災の被災地を激に遊ばなくなったお手玉を復活させよう。会長で鹿児島市の市民グループ「お手玉の会」を立ち上げた山本清洋さん（71）は「設立して全国大会を開いた効なコミュニケーション」をきつかけ、増強した。

山本さんほどの遊びと良さを認め、「丸」や「ル」に関する研究の「丸がないから」と、伝承者を作ることが「山本」で、「両手を使う」と、中継ぎのない絶滅してしまつてしまつた「お手玉」の存在意義を、お手玉の普及を促す。現在、指宿や種子島など、5か所に支部があり、約150人が所属している。毎月には県大会を開く予定だ。

山本さんは「スポーツと違い、お手玉やおはじきは自分たちでルールをきめる。そこで会話や知恵が生まれ、初心者から上級者まで一緒に遊べる」と、岩手県釜石市の仮設住宅を訪ねて技を披露したという。

「県内全ての市町村に支部を作るのが目標」と山本さん。「子どもに普及させるには、知識と技術を持った大人が必要。イベントを開くなどして活動の幅を広げたい」と話している。

県内の市町村すべてに支部を作りお手玉遊びを生活に

「読売新聞」の記事から

「昔ながらの遊びの普及を目指す『鹿児島お手玉の会』（事務局・始良市）が、結成10年を迎えた。東北大地震の被災地を激励するなど年々活動の幅を広げている。会長で鹿児島大学名誉教授（教育学）の山本清洋さん（71）は『有効なコミュニケーションの手段として、さらに広めたい』と意気込んでいる。」

時代の変遷とともに次第に遊ばれなくなったお手玉。1992年、愛媛県新居浜市の市民グループが『日本のお手玉の会』を設立して全国大会を開いたことがきっかけに復権した。大会は今も続いており、毎年、全国から1500人以上が出場するという。

山本さんは子どもの遊びやスポーツに関する研究の中で、『両手を使うことで左右の脳を活性化させる』というお手玉の効果に着目。老人施設の入所者や子どもたちに広めようと、2003年、鹿児島お手玉の会を結成した。

山本さんは『スポーツと違い、お手玉やおはじきは自分たちでルールをきめる。そこで会話や知恵が生まれ、初心者から上級者まで一緒にあそべる』と良さを説明。一方、『ルールがないからこそ、伝承者がいないと絶滅してしまう』と会の存在意義を語る。

現在、指宿や種子島など5か所に支部があり、約150人が所属している。活動は普及目的にとどまらず、12年には東日本大震災の被災地にお手玉1000個を送ったほか、『笑顔を届けよう』と、岩手県釜石市の仮設住宅を訪ねて技を披露したという。

「県内全ての市町村に支部を作るのが目標」と山本さん。「子どもに普及させるには、知識と技術を持った大人が必要。イベントを開くなどして活動の幅を広げたい」と話している。